

潰瘍性大腸炎に対する抗TNF療法に及ぼす ステロイド総投与量の検討 —レトロスペクティブ試験

○研究の目的

ステロイド剤の投与量が、抗TNF製剤の有効性および安全性に対してどのくらい影響があるかを確認することを目的としています。

○研究の方法

*対象となる患者さん

平成26年12月までに抗TNF製剤を投与したことがあり、過去のステロイド剤の投与量が判明している潰瘍性大腸炎の患者さん10名（全体で100名）を対象とします。

*研究方法

過去のカルテの記録（症状、治療歴、血液検査、内視鏡所見）をデータとして使用します。なお、個人情報とは十分保護されます。

中四国9施設の病院で共同で研究を行い、広島大学にデータを集め解析します。

島根大学病院、岡山大学病院、香川県立中央病院、川崎医科大学、
徳島大学病院、鳥取大学病院、チクバ外科胃腸科肛門科病院、山口大学病院

*研究期間

委員会承認後から平成29年9月30日まで

○個人情報の保護について

本研究を通じて、お名前、住所、カルテ番号などが外部に伝わることはありません。当センターは、あなたの個人情報の保護には十分配慮し、法令を厳守いたしますのでご安心下さい。

研究の参加を希望されない場合は遠慮なくお申し出ください。

詳しい内容をお知りになりたい方は、
下記までお問い合わせください。

消化器内科 研究責任者：石原 俊治

消化器内科医局 Tel：0853-20-2190

（土日・祝日を除く平日8:30-17:00）